

# 新保冷カゴ車を開発

## アイ・ティ・イー 真空断熱材使用

温度管理システム「アイスパッテリーシステム」を開発、提供しているアイ・ティ・イー（本社＝東京都千代田区、パンカシ・ガルグ代表取締役社長）は保冷カゴ車「アイスパッテリー

カート」の新型モデルを開

発した。中国企業と共同開発した真空断熱材を用いたことで、軽量化とともに温度維持性能が従来比で40%アップ。既に医薬販売会社が国内輸送でトライアルし

ている。

新モデルは、外寸が縦136㎝、幅86㎝、奥行き75㎝。内寸は縦125㎝、幅75㎝、奥行き60㎝。容積は562リットル。重量は約40キロで従来型モデルから約15%軽量化した。

アルミニウムのコンテナ内部には、真空断熱材を利用。保温性の向上に加え、厚さは従来比で10分の1に薄くなった。外気が35度の場合、庫内温度を24時間、定温で保てる。同社が独自開発したプレート状のアイスパッテリーは24枚利用できる（写真の上部）。これを利用して温度や保温時間を調整するが今後、48時間

まで延長できるように検討していく。また、開発した商品の下部にはキャストが付いているが、取り外しができるようなモデルも検討している。

利用方法は、国内でのトラック、航空、海上輸送に加え、一時的な保管庫としても活用できる。例えば、電気をいわず、アイスパッテリー自体で温度を調整するため、場所を選ばず保管庫の役目を果たすことが可能だ。

パンカシ・ガルグ社長は「新型モデルはマルチな役割を果たす。B to Bでの利用が想定される」（パンカシ・ガルグ社長）と述べる。とともに、農産物の鮮度を維持するための湿度も十分に保てるという。

また、「東日本大震災でガソリン需給が逼迫している。保冷車や冷凍車などに替えて、われわれの保冷カ

ゴ車を使えば、一般的な常温のトラックで冷凍品や冷蔵品が輸送でき、燃費も改善できる」とした。新モデルは国内工場で生産する。生産能力は月産100台だ。

同社はパンカシ社長が台湾の国家機関と共同で2007年7月にITET台湾を設立し、同8月に日本法人を立ち上げた。

製品導入済みおよび予定の主な企業は、日本ではアスクトランスポート、日本航空インターナショナル、全日本空輸のほか、大手の医薬品卸業、ワクチン製造製薬会社、血液検査会社、輸送サービス会社、和菓子会社などがある。海外では、台湾スターバックス、台湾日通、台湾セブンイレブン、台湾ハーゲンダッツアイスクリーム、台湾T-JOIN（大栄貨運）、台湾赤十字、台湾郵便。



「アイスパッテリーカート」の新型モデル